

からだのための命の経験、成長、務め

(土曜日——午前の第一の部)

メッセージ 4

霊を対処することによって命において成長する

聖書：詩51:10後半, 12, 17前半. 箴16:18-19. イザヤ57:15. 66:1-2. I ペテロ3:4.

ガラテヤ6:1. I コリント4:21. マタイ5:3. ルカ9:54-56

I. 霊を対処することは、霊そのものを対処することではなく、霊の通路を対処することです——ルカ9:54-56. I ペテロ3:4:

- A. わたしたちの存在の最も深い部分である再生された霊は、純粹であり、汚れていません。しかしながら、霊の周りには魂と体があり、魂と体は両方ともサタンの邪悪な要素と混ざり合っており、それゆえ汚れており、腐敗しています。
- B. ですから、霊は出て来て魂と体を通過するとき、この汚れと腐敗によって汚染されます。このゆえに、霊が出て来るとき、それは特定の汚れ、腐敗、不純、不正、他の望ましくないさまざまな状態を帯びているのです。
- C. わたしたちは、霊に付いているものの特徴によって、霊の特徴を判断します。わたしたちがどのような種類の人であるかが、わたしたちの霊が帯びる特徴がどのようなものになるかを決定します。わたしたちの霊が解放されるとき、それがわたしたちという人の味わいや色彩を表現します。こういうわけで、人の質は、その人の霊の質を決定するのです。
- D. もしある人が魂の中で高ぶっているなら、彼の霊も高ぶりの中でそれ自身を現します。もしある人が肉の中で怒っているなら、彼の霊も怒りを現します。
- E. わたしたちはしばしば、思い煩いの霊、ねたみの霊、反逆的な霊、粗野な霊、曲がった霊、自慢する霊、支配的な霊、傲慢な霊などに遭遇します。それらはみな霊そのものの問題ではなく、霊が魂と体を通過するとき、それらの望ましくない要素が霊に与える汚染の影響なのです。わたしたちは霊の種類から汚れの種類を告げることができ、また霊の種類は人の種類を現します。
- F. もしわたしたちの動機が不純であるなら、出て来る霊も不純です。もしわたしたちの意図が清くないなら、出て来る霊も清くありません。自分の栄光を求める心の目的があれば、その結果は見栄っ張りで傲慢な霊です。張り合う動機があるなら、張り合う競争的な霊に他の人を触れさせます。
- G. わたしたちは行動したり語ったりしようとするときはいつでも、わたしたちがしようとしている事は正しいか間違っているか、良いか悪いかを問う必要があるだけではありません。またわたしたちの内なる意図は清いか、わたしたちの動機は純粹であるか、目標は完全に神のためであるかどうかを識別しなければなりません。
- H. わたしたちは自分の行動の背後に何か利己的な目的があるかどうか、あるいは自分の好みがあるかどうかを調べる必要があります。このような対処が、霊を対処する

ことです。

- I. こういうわけで、わたしたちは霊が出て来ることができるために、わたしたちの肉、自己、天然の構成が砕かるようにする必要があるだけでなく、さらに一歩進んで、心の消極的な目的、望ましくない意図、不純な好み、正しくない意志、複雑な感情をすべて最後まで対処しなければなりません。それは、霊が出て来ることができるためだけでなく、霊が真つすぐで、清く、純粋な状態で出て来るためです。
 - J. 霊を対処する実際的な方法は、すべての混合を罪定めして、聖霊の力によってそれらを取り除き、率先して十字架を適用し、わたしたちの肉、自己、天然の構成、心の目的、目標、意図、好み、動機などを含む、霊の通路を十字架につけることです——ローマ8:13。ガラテヤ5:24。
 - K. 神はわたしたち周辺のすべての環境と事柄を案配して、自己を対処し、自己を破壊します。このようにして、聖霊の管理によって、わたしたちの霊の質は高められ、純粋にされます——マタイ10:29-31。ローマ8:28-29。
 - L. すべての兄弟姉妹が、質において優れた、卓越した、純粋な、重みのある、高貴な霊を持つなら、彼らは互いに供給し合い、召会は豊かになります——参照、ダニエル5:12。6:3。
- II. わたしたちはキリストのからだを建造することにおいて有用になるために、正しい霊を持つ必要があります：**
- A. ルカ第9章で、ヤコブとヨハネは、天から火を下して、主を拒絶したサマリア人の村を焼き尽くすよう命じるべきかどうか主に問いました（54節）。しかし、主はヤコブとヨハネをしかって言いました、「あなたがたは自分がどのような霊であるか、わかっていない。人の子が来たのは、人の命を滅ぼすためではなく、救うためである」（55-56節）：
 1. 弟子たちの霊は間違っていました。なぜなら、彼らの動機が憎しみであったからです。主の霊は人の命を救う霊であり、人の命を滅ぼす霊ではありません。
 2. ウオッチマン・ニー兄弟は言いましたが、人は正しい事を行なうだけであるべきでなく、正しい事を正しい方法で正しい霊で行なうべきです。
 3. キリストのからだの建造において、わたしたちの行為が建設的で、人を成就し、有用なものであるために、わたしたちは自分が行なう事において正しくなければならず、わたしたちの方法において正しくなければならず、わたしたちの霊において正しくなければなりません。わたしたちは何かを行おうとするときはいつでも、自分がどのような霊を持っているのか自分自身に問うべきです。
 - B. 追い求める聖徒は、霊の中で貧しく、純粋な心であるべきです——マタイ5:3, 8。イザヤ66:2：
 1. 霊の中で貧しいことが意味するのは、わたしたちがへりくだっており、自分が何も持っておらず、何も知らず、何もできず、何者でもないことを認めているということです——参照、ガラテヤ6:3。
 2. 霊の中で貧しいとは、わたしたちの霊の中で空にされており、わたしたちの存在

の深みを占有しているものを何も持っていないことです。純粋な心とは、動機と関係があり、それは目的において単一であり、神の栄光のために神のみこころを成し遂げるといふ単一な目標を持つことです—— I コリント10:31。

C. わたしたちは堅固な霊を持たなければなりません——詩51:10後半：

1. 堅固な霊とは、動かされず、揺り動かされず、堅く安定したものとして絶えず立ち続ける霊です——参照、 I コリント15:58。
2. ダビデは悔い改め、復興のために祈っていたとき、彼の内にある堅固な霊を主が新しくしてくださるよう祈りました。
3. わたしたちは堅固な霊を必要とします。それは常に堅く、安定しており、動かされず、揺り動かされないものです。そうすれば、わたしたちは決して試みられたり、誘惑されたり、誤って導かれたりすることはありません。

D. 悔い改めた信者は喜んで従う霊を持っています——「あなたの救いの喜びをわたしに戻し、喜んで従う霊をもってわたしを支えてください」——詩51:12：

1. 信者として、わたしたちは主の事と召会の事に対して、喜んで従う霊をいつも持つべきです。
2. 主の權益の事において喜んで従う霊は、救いの喜びにかかっています。わたしたちは救いの喜びを持つとき、自然に喜んで従う霊を持って、主について行きます。主が欲するもの、主が願うもの、主がわたしたちに求めるものに対して、わたしたちは喜んで従う霊を持って答え、従います。
3. わたしたちは神の霊の中で喜びを持つとき、主を喜ばせることができることを何であれ喜んで行ないます——ローマ14:17。

E. 詩篇第51篇17節前半で、ダビデは言っていますが、神の求める犠牲は砕かれた霊です：

1. 砕かれた霊は、悔い改めて、どんな罪惡に対しても非常に憂い悲しみを感じる霊です。言い換えれば、砕かれた霊は、真に悔い改める霊です。
2. 砕かれるとは、完全でないことを意味します。その意味は、あなたが自分のことを完全である、完璧である、全体的であると考えないということです。あなたの霊が悔い改めているとき、あなたの霊は砕かれ、悔いて、憂い悲しんでいます。

F. わたしたちは、柔和で穏やかな霊を持つ必要があります：

1. I ペテロ第3章4節は、わたしたちの心の隠れた人は柔和で穏やかな霊であると言っています。ガラテヤ第6章1節は、わたしたちは墮落した兄弟を柔和の霊の中で挽回する必要があると言っています。I コリント第4章21節でパウロはコリント人に、彼らの所へ杖をもって行くのと、柔和の霊の中で行くのとどちらを望むかと尋ねました。
2. 「柔和な人たちは幸いである。彼らは地を受け継ぐからである」——マタイ5:5：
 - a. 柔和であるとは、この世の反対に抵抗せず、進んでそれを耐え忍ぶことを意味します。この世の道は、争い、競い、他の人を打ち負かして、いくらかの財産

や相続を得ることです。

- b. 状況がどうであれ、わたしたちは柔和であるべきであり、他の人たちと争うべきではありません。柔和とは、自分のために争わないことを意味します。

G. 神は、霊が悔いてへりくだった人と共に住むことを願っています——イザヤ57:15. 66:2. 参照、箴16:18-19 :

1. もしわたしたちが霊の中で悔いてへりくだっているなら、わたしたちは霊の中で砕かれており、神の臨在を享受することができます。そのとき、神はわたしたちと共におられ、わたしたちと共に住んでさえおられます。
2. 「まことに、高く上げられ、永遠の中に住み、その名が聖である方はこう言われる、『わたしは高くして聖なる所に住み、また、霊が砕かれた（悔いた）へりくだった人と共に住み、へりくだった人の霊を生かし、砕かれた（悔いた）人の心を生かす』」——イザヤ57:15。
3. 「エホバはこう言われる、『天はわたしの座、地はわたしの足台である。あなたがたがわたしのために建てる家はどこにあるのか？ また、わたしの安息の場所はどこにあるのか？ これらすべての物は、わたしの手が造ったものであるので、これらすべての物は存在しているのである』とエホバは告げられる。『しかし、わたしが見つめるのはこのような人である。すなわち、貧しく砕かれた（悔いた）霊の者、わたしの言葉におののく者である』」——66:1-2。
4. 神が持つことを願っている住まいは、神が入ることのできる一群れの人々であり、それは悔いてへりくだった霊を持つ一群れの人々です：
 - a. 神は宇宙に一つの住まいを持つことを意図しています。それは神と人のミングリングであり、その中で神は人の中へと建造され、人は神の中へと建造されます。それによって、神と人、人と神は互いに相互の住まいとなることができず（ヨハネ14:2, 20, 23. 15:4. Iヨハネ4:13）。新約において、この住まい、この家は召会であり、それは信者たちの霊の中にある神の住まいです（エペソ2:22）。
 - b. この宇宙的な建造、この宇宙的な家の究極的な現れは、新エルサレムです。この都の中で、神は人の中にいて、人を神の住まいとし、人は神の中にいて、神を人の住まいとします——啓21:3, 22。

務めからの抜粋 :

霊の質 動機と霊

倪柝聲（ウオッチマン・ニー）兄弟：今日は、昨日交わりきれなかった部分を取り上げてみましょう。昨日のリー兄弟の質問の二番目は、どのようにして動機と霊の違いを識別するかでした。多くの聖書翻訳者は、ルカによる福音書第9章55節の「霊」に代わって「心」という言葉を用いています。ある人々は、ここの霊は人の態度のことを言っていると思うかもしれませんが。彼らは、霊が正しいというのは、実は態度が正しいことであると思っています。しかし、霊と態度との間には大きな違いがあります。

態度は、心の動機から出て来ます。それでは、人の霊と動機との間にはどんな違いがあるのでしょうか？ 救われる前、人は心に動機を持つことができますが、霊を持っていません。信者には、動機があり、また霊もあります。救われた人の霊は、心の中にある動機によって容易に影響されます。わたしたちは以前、人の霊は性質のないものであると言いました。若い人が、自分の霊は性質のないものであることに気づくには、クリスチャン生活を三十年経過しなければなりません。クリスチャンになって長ければ長いほど、あなたは、自分の霊が性質のないものであり、それ自体には特徴がないことを、より知るようになるでしょう。霊の特徴は、あなたという人から出て来るのです。霊には性質はありません。それは水と同じようなものです。水に別の物を加えると、それは加えられたものの性質を帯びます。水に醤油を加えると、水は醤油の特徴を帯びます。同じことが人の霊についても言えます。人が異なれば、霊の特徴も異なります。神がわたしたちに与えてくださった霊は、同じものです。しかし、わたしたちの霊が出て来る時、それは不純なものになります。なぜなら、わたしたちの心の動機が不純であるからです。もしわたしたちの動機が自分自身のためであるとか、自分の将来や商売のためであるなら、この動機がわたしたちの霊を汚染し、わたしたちの霊はこの動機の特徴を帯びるようになります。主は弟子たちに、彼らの霊は間違っていると言われました。彼らの霊は、主の霊のようではありませんでした。主は、どんな人も自分の罪のために死ぬことを願われません。人の子が来たのは、滅ぼすためではなく、救うためです。

この世は不思議な所です。この世の人はだれ一人として、主が人の生活を送っておられた時に持っておられたような感覚を持っていません。この世の人はみな、動機が利己的です。仮に、あなたが学校で一位を取れないとします。学校で一位の人が手術のために入院すると、あなたは彼が死ぬことを願います。あなたより聡明であるという理由だけで、この人は死ななければならないのでしょうか？ こういうことは、政界では当たり前になっています。ある人が高い地位に昇進できないと、自分の政敵が死ねばいいと思います。商売の競争が激しくなると、ある人々は競争相手の経営者が死ぬことを願います。弟子たちの霊が間違っていたのは、彼らの動機が憎しみであったからです。主は、彼らが願っているような方法で祈ることを許されませんでした。主の霊は、だれかが死に価するなどは考えません。ですから主は、滅ぼすためではなく、救うために来たと言われました。これが主の心です。これが主の霊です。

弟子たちの心は間違っていました。ですから、彼らの霊も間違っていました。未信者には心があるだけで、霊はありません。彼らの心は内側に隠されていて見えません。しかし、救われた人の霊は流れ出ることができ、その心は霊と一緒に流れることができます。未信者の動機は、その人の語ることから察することができます。しかしクリスチャンの場合、それは察する問題ではありません。何かははっきりと彼の存在から出て来るので、経験を積んだ人々にはそれを見分けることができます。救われていない人は、心が内側に隠れていますが、クリスチャンの心は、霊と共に流れ出ます。クリスチャンの霊が解放される時、別のクリスチャンは霊を活用すると何かに触れます。人は言葉では他の人を欺くことができても、経験豊かな人に霊を隠すことはできません。

どのようにして正しい霊を持つか

どのようにすれば正しい霊を持つことができるのでしょうか？ 人の霊は、その人自身の味わいや色彩を帯びています。わたしたちの霊が解放される時、それがわたしたちという人の味わいや色彩を表現します。わたしたちの霊が正しくあるためには、わたしたちは対処を通過しなければなりません。人の質は、その人の霊の質を決定します。一人の人が再生される時、神が彼に与えた新しい霊は、他の人に与えられる霊と質において同じです。人がほとんど学ぶこともなく、対処を経過することもほとんどないのであれば、彼の霊は依然として暗やみの中にあるでしょう。教理的に言えば、このことはとても単純です。頭の良い人は、メッセージをする人の材料、口調、教え、語り方を繰り返すことができます。こうすることによって、彼は自分を正しい霊の持ち主であると考えられるかもしれません。しかし、わたしたちはクリスチャンの間に、とても興味深いことを観察します。彼らは他の人の教理を寄せ集めますが、彼らの霊には変化がなく、教理と霊が混ざり合うことはありません。ある兄弟は、言葉や口調では他の人と同じであっても、彼の霊は元のままです。そこには何の進歩もありません。彼の霊は少しも純粋になりません。人に純粋な霊がなければ、彼は自分の霊が、純粋な霊を持つ人たちから解き放されるすばらしい言葉と相入れないことに気づくでしょう。彼は他の人のメッセージを使うかもしれませんが、その人と同じ霊を持っていません。

若い働き人が主のために働く資格があるかどうかをテストする負担を、主はわたしに与えてくださいました。ほとんどの兄弟姉妹は、主のために働くのに最も重要なことは、正しい教えを知っていることであると思っています。しかしわたしは、人のメッセージには十パーセントしか注意を払いません。わたしは九十パーセントの注意をその人の霊に払います。ある人は論理的なメッセージをすることもできても、反逆的で、粗野で、あら探しをする、邪悪で、高ぶった、かたくなな霊の持ち主かもしれません。未信者は、高慢であるだけであり、高慢な霊を持つことはあり得ません。クリスチャンは、高慢な霊を持つ可能性があります。口を開く時、彼は自分の霊を解き放します。クリスチャンの心の中に間違った動機があれば、彼が解き放す霊は間違ったものになります。若い人は砕きを求めて祈ることもできるし、砕きについてのメッセージをすることもできますが、彼という人そのものが依然として砕かれていないかもしれません。自分自身を欺くことはできても、神と召会を欺くことは容易ではありません。召会は、その人の霊から、その人がどこにいるかを識別することができます。

人の霊は、神がみわざをなし、住まわれる場所です。神の働きの痕跡は、人の霊の中にあります。ある兄弟が以前わたしに手紙で次のように言いました、「どの兄弟姉妹も、わたしが間違っていると言います。あなたでさえ、わたしが間違っていると言います。みなは正しく、わたしがいつも間違っているかのようなようです。あなたがたがみな、わたしのことを間違っていると言うので、それならわたしも自分が間違っていると言うしかありません」。そのような言葉によって、かたくなな霊が伝わってきます。手紙を読んでから、わたしは次のように返事をしました、「打たれば打たれるほど、あなたはかたくなになっていきます。対処されればされるほど、あなたはますます従わなくなっています。あなた

の言葉と振る舞いは正しいかもしれませんが、あなたの霊は間違っています」。数か月前、わたしは再びこの兄弟に会いました。彼の霊は変化していました。彼はもはや教理をかき集めることもなく、彼の霊の質は高められていました。わたしたちには、他の兄弟姉妹と同じように霊を訓練する機会があります。ある人があなたよりすばらしい知恵、雄弁さ、能力、賜物を持っていたとしても、それは必ずしもあなたより多く霊を訓練する機会があるということではありません。神はわたしたちを対処し、わたしたちの霊を訓練する目的で、すべての環境と物事を案配されます。ですから、わたしたちは聖霊の管理にもっと従わなければなりません。

ここでわたしたちは、聖霊の管理について語る必要があります。聖霊はただわたしたちの命として内側におられるだけではありません。彼は、わたしたちを訓練する目的で、わたしたちの環境を管理しておられます。神はどのような環境がわたしたちにとって最適であるか知っておられます。これが聖霊の管理です。わたしたちに起こる環境はどれもみな、神によって計られています。未信者には、巡り合わせや偶然の一致というものがあっても、クリスチャンにはありません。主イエスは、わたしたちの髪の毛はみな御父によって数えられている、と言われます。すずめはあまり価値のないものです。すずめを四羽買えば、一羽おまけについてきます。しかし、御父の許しがなければ、一羽も地に落ちることはありません。わたしたちは鳥よりも貴重な存在です（マタイ 10:29-31）。わたしたちの環境に起こることはみな、髪の毛が抜け落ちることや、鳥が地面に落ちることさえも、神の主権の下で起こっています。この主権の目的は、わたしたちを成就することです。聖霊の日々の管理は、自己を対処し、破壊するためにあります。こうして、霊の質は高められ、純粋にされます。もしわたしたちが安楽を求めて、聖霊が定められた環境から逃げるなら、苦しみは減るかもしれませんが、わたしたちの霊の質が豊かになって、純粋にされることはないでしょう。

貧しい霊の人たちは、最初から貧しかったわけではありません。彼らが貧しくなったのは、主に内側で働いていただくことを拒んだからです。もしわたしたちが進んで聖霊の管理に服従するなら、わたしたちの霊は強く、純粋になるでしょう。

ある人はクリスチャンになって二十年、三十年になるかもしれません。彼はリバイバル活動をする人として、三十年間も活動を導いてきたかもしれません。わたしは、このような事には全く注意を払いません。ある人々の場合、わたしたちは彼らの霊の中に尊い性質を全く感じません。人の霊が良いものであれば、それに触れるやいなや、わたしたちは新鮮にされ、油塗られたと感じるでしょう。わたしたちが学んできたすべての学課は、わたしたちの霊の中に蓄積されています。装うことは不可能です。わたしたちが装おうとすればするほど、偽物であることが暴露されます。多く人は、わたしの前で霊的であろうと装います。彼らはわたしに認めてもらいたいと思っています。以前、上海のある姉妹が、ニー兄弟は決してだれをも褒めないと言いました。彼女は、わたしの水準に届く人はいないと考えました。実際、だれかを推奨する資格のある方は、ただ主だけです。霊的な人は、自動的に主の承認を得るでしょう。あなたの霊が間違っているなら、わたしがあなたを気に入っていると、あなたを認めるなど言ったところで、何の益があるのでしょうか？

ある人は、心では憎んでいるのに、口では愛していると言います。口から出て来るのは愛ですが、霊から出て来るのは憎しみです。わたしたちに経験があれば、人の霊に触れるやいなやわかります。人は装って他の人を欺くことはできますが、自分の霊を隠すことは決してできません。

多くの人は、言葉と思考では正しいのですが、霊では間違っています。霊の質は、わたしたちがどれほど聖霊の管理を受けたかによって決まります。聖霊がある事を罪定めする時、わたしたちは彼と一緒に同じ事を罪定めすべきです。もし毎日聖霊の管理を受け入れて、自分自身を対処することを学ぶなら、毎日わたしたちは前進するでしょう。わたしたち自身は自分の進歩に気づかないかもしれませんが、他の人にはわかります。上海で、人々はよくわたしの家のドアをたたいて、面会を求めます。彼らはわたしに会うと、「ニー兄弟、わたしの霊には進歩があったのでしょうか？」と尋ねます。このような質問をする人には、たいてい何の進歩もありません。進歩とは、自分で容易に感じ取れるものではありません。他の人たちには、わたしたちの霊がどのようなかわかりますが、わたしたちにはわからなくてよいし、わからないのが一番良いのです。モーセの顔は輝きましたが、彼にはそれがわかりませんでした。それを見たのはイスラエル人たちでした（出 34:29-30）。仮に、ある人がいつも鏡をのぞきこんでいるとします。あなたは彼が、自分は前日と大いに変わったことに気づくと思うのでしょうか？ 彼が、自分が成長したかどうかかわかると思うのでしょうか？ わたしはそのような人に会ったことはありません。だれも、自分の霊的状态についていつも考えたりしてはいけません。わたしたちに必要なのはただ、霊の中でできる限り多くの学びをすることです。

良い霊を持つ目的

良い霊を持つと、どうなるのでしょうか？ もし召会の兄弟姉妹すべてが純粹で高貴な霊を持つなら、彼らは相互に供給し合い、召会は豊かになるでしょう。

わたしは 1919 年の終わりにクリスチャンになりました。1920 年の初めに、M・E・バーバーという一人の姉妹に会いました。わたしは彼女から多くの助けを受けました。この助けは、単に彼女の語った言葉から来たものではありません。彼女に会い、家に泊めてもらったり、一緒に散歩したりすることで、わたしの霊は養われました。ある人たちの場合、彼らが供給を与えるのはただ語っている時だけです。バーバー姉妹の場合は違っていました。彼女があなたの前に座るだけで、あなたは養いと油塗りを受けます。これが真の霊的供給です。それは、何かを行ったり、何かを語ったりする問題ではありません。だれであれ、より多く学課を学ぶなら、霊的蓄えをさらに持ち、より多くの供給を他の人々に与えることができます。

奉仕のために、わたしたちはまず霊を活用することを学ばなければならない

わたしたちは、召会として奉仕することを学んでいます。わたしたちには、正しい霊的感覚がなければなりません。わたしたちは、いつも霊と接触を持たなければなりません。そうでないと、いわゆる神への奉仕はただの自己欺瞞になってしまうでしょう。わたした

ちの神への奉仕は、彼に対するわたしたちの霊的応答の結果でなければなりません。霊が霊に触れる時、そこには霊の応答があります。わたしたちの霊が触れられるためには、まず他の人たちの霊がわたしたちに触れなければなりません。人の喜び、涙、言葉は、わたしたちの霊に触れることはできません。霊だけが霊に触れることができます。神に仕え、神の導きを受けるために、わたしたちは自分の霊を神に開いて、彼の霊に触れ、他の人たちの霊にも触れなければなりません。霊のない奉仕はみな、神の御前では何の価値もありません。召会全体が霊的な奉仕をするためには、わたしたちに正しい霊がなければなりません。わたしの霊が開き、すべての兄弟姉妹の霊が開き、わたしたちすべてが神に触れ、霊の中で神に奉仕する時、召会全体の奉仕があるようになります。もしわたしたちが自分の思い、知恵、感情にしたがって奉仕するなら、わたしたちの霊は閉ざされてしまいます。霊を活用することは、わたしたちの集会や奉仕ではとても大きなことです。わたしたちはみな、霊にしたがって歩くことを学ばなければなりません。

どのようにすればわたしたちは、召会の中で物事が正しくなされているかどうかを知ることができるのでしょうか？ それは、わたしたちの霊がどのようにそれに反応し、それを判断するかにかかっています。わたしたちの判断と交わりは霊に基づいており、意見の優越ではありません。福音を宣べ伝える時、わたしたちの語りかけがただ「すばらしい」思いから出て来たものにすぎないなら、わたしたちはただ人の思いに触れるだけで、霊に触れることはないでしょう。人の霊に触れるためには、思いから出て来た言葉を使わないことを学ばなければなりません。霊が使わない言葉を使つてはいけません。霊が拒むものを拒み続けるなら、わたしたちの霊は高められます。

今後わたしたちは、同労者たちのメッセージ、兄弟姉妹の証し、リバイバルの働きをする人たちのメッセージについて判断を下す時、語り手の霊に基づいてしなければなりません。わたしたちは、霊の供給があるかどうかを尋ねるべきです。盲人はいったん見えるようになると、他の器官をあまり活用せずに、自分の目をさらに使うようになります。同じことがわたしたちの霊についても言えます。わたしたちは思いをあまり使わずに、霊をさらに使うことを学ばなければなりません。腕とか筋肉のような身体の器官は、使えば使うほどますます強くなります。これはわたしたちの霊にもあてはまります。霊は使えば使うほど、ますます強くなります。

若い兄弟姉妹に言いますが、あなたがたは祈る時、霊の中で多く促すものがあれば、もっと多く祈ってよいのですが、霊の中に促すものがほとんどなければ、祈りを短くすべきです。毎回祈った後、年長の兄弟姉妹に相談しながら学ぶとよいでしょう。何回かこの事を学んだ後、わたしたちは自分の霊の真の状態を知るようになるでしょう。こうして、わたしたちは霊にしたがって祈ることができるようになります。祈る時、周りに多くの「アーメン」が聞こえても、それは必ずしもわたしたちが正しいということではありません。もちろん、「アーメン」が何もないければ、自分の祈りを疑い、それが霊のものであるかどうかをはっきりさせなければなりません。必ずしも短い祈りが良いというわけではありませんし、長い祈りが良いわけでもありません。多くの声があるのが良いことではないかもしれませぬし、声を出さないのも同じように良くないかもしれませぬ。わたしたちの語る

ことや黙っていることが聖霊の管理の下にないなら、いずれもその霊を妨げます。若い兄弟姉妹は、まだこの学びが少ないです。ですから、彼らはへりくだって、尋ねることを学ばなければなりません。聖徒たちが、だれかの祈りや語りかけが適当でないと感じたら、その人にそれを正直に指摘すべきです。もし語った本人に告げずに、彼の背後を見回して「電報を打つ」なら、召会の中で分派をつくることになります。

わたしたちは外側で組み合わされるのであってはいけません。わたしたちの霊には重みがあり、質において卓越していなければなりません。どうか主がわたしたちをあわれんでくださり、この点でさらに学課を学んでいくことができますように。（ウオッチマン・ニー全集第62巻、第42編）